

會議概要

件 名	令和 6 年度 第 1 回安曇野市スポーツ推進委員会 代表者会議
期 日	令和 6 年 7 月 3 日（水） 午後 7 時 00 分～
場 所	安曇野市役所 3 階 会議室 305
出 席 者	安曇野市スポーツ推進課：2 名 安曇野市スポーツ推進委員：会長 豊科：2 名 穂高：1 名 三郷：1 名 堀金：3 名 明科：1 名
配布資料等	・ 令和 6 年度 第 1 回安曇野市スポーツ推進委員会代表者会議次第 （資料 1 ～ 4）
1. 開会 2. あいさつ 3. 報告事項 ・ 5/18 新任スポーツ推進委員研修会 ・ 5/25 長野県スポーツ推進委員協議会女性委員会研修会（喬木村） ・ 5/27 安曇野市市民スポーツ祭実行委員会 ・ 6/7 関東スポーツ推進委員研究大会 ・ 6/26 安曇野市スポーツ推進委員 新任研修会 ・ LINK に登録した。登録はスポーツ推進委員ではなく会長名。受付の流れについては、事務局（各公民館等）→会長→担当地域の代表者 となる 質問事項→なし	
4. 協議事項 (1) ワーキンググループ ・ 昨年は県の研究協議会があったことから、協議する時間を割けなかったが、今年は、スポーツ推進委員の活動の今後についてしっかり検討していきたい。 ・ 「部会」という呼称は堅いイメージがあるため、「ワーキンググループ」という呼称としたい。 ・ スポーツ推進委員の会誌「みんなのスポーツ」から、他県他市の活動内容をまとめた。今後の研究の参考とされたい。 ・ R6 年度の新任者はスムーズに決まったものの、今後の後任者選びが難航した場合、地域代表者の負担となる恐れがあるため、ワーキンググループにおいてより良い手法を研究していく。 ・ 部活動の地域移行にもスポーツ推進委員が携わっていく可能性があるため、ワーキング	

グループでの研究対象の一つとしたい。

- ・スポーツ推進委員の活動実績として過去には、豊科地域で始めたワンバウンドふらばーるバレーがスポーツ祭の競技の一つとなった経過がある。現在様々なニュースポーツが存在していることから、スポーツ推進委員として普及に寄与できる新たな競技の研究とともに、スポーツ推進委員の活動内容を広報していく部会も設けたい。
- ・上記３つのワーキンググループを基本として、R6～7年度の活動をしていくことを提案したい。

《質疑》

○部活の地域移行について

【委員B】

地域移行と言っているが、良い選手が他市のクラブチームにとられてしまう実情があり、クラブチームのみが利益を得て、むしろ子供の選択肢が狭まり、有名無実化してしまっている印象がある。地域をまたいで他市のチームに所属する選手もあり、「地域移行」とはかけ離れてしまっている実感がある。

【委員A】

地域スポーツクラブではなく、学校で部活動が出来るからスポーツをしているという層もいる。チームでの勝敗にこだわる層はクラブチーム所属でも問題ないが、そうでない層を切り捨ててしまう結果になるのは避けるべき。地域移行の手法が多々ある中で、実際に地域移行に向けてどのような体制を築いていくか方針が定まっていない印象がある。

【市職員】

まずスポーツ推進課としての部活動地域移行への関わり方について説明しておきたい。地域移行した部活動は「地域スポーツクラブ」となり、総合型地域スポーツクラブに所属する。スポーツ推進課は地域スポーツクラブの指導者謝礼に補助を出してはいるが、直接的に部活動の地域移行を主導しているわけではない。主管課である学校教育課には、スポーツ推進委員への協力依頼の前提として、地域移行の方針と現状をレクチャーするように依頼しているため、学校教育課からのガイダンスを経てから、ワーキンググループでの本格的な協議に臨むほうが良いかもしれない。

【委員C】

総合型地域スポーツクラブに所属している身からしても、実際に地域移行の実情や方針が分かっていない事実があり、スポーツ推進委員としてどのように関わっていけば良いかも判然としていない。その段階で、スポーツ推進委員としての関りを模索しようとしても難しいのではないかな。

【市職員】

地域移行の取り組みの端緒として、部活動のうち休日の活動についての地域移行を進めている状況。進捗としては、安曇野市内 74 部活中、38 部活において休日活動の地域移行が完了している状況である。実際には、先述のようなクラブチームに所属する子供もいるが、市教委では営利団体で運営しているクラブチーム等は地域移行の対象とはしていない。部活動の地域移行の目的の一つとして、スポーツをしたい子どもにとっての選択肢を増やしていく面がある。競技にソフトに携わりたい層の受け皿になるような団体

を増やしていきたい目論見がある。いずれにしても、部活動地域移行はいまだ過渡期にあるため、スポーツ推進委員として協力するには時期尚早かもしれない

【委員A】

部活動地域移行の体制が定まるのを待って、スポーツ推進委員として関わっていくこととしたい。ワーキンググループの検討内容からは一旦除外したい。

○安曇野市スポーツ推進委員独自の活動について

【市職員】

他市において、スポーツ推進委員として独自に活動している実例があったが、安曇野市スポーツ推進委員として、今後独自に活動を展開していく方針はあるか。

【委員A】

ワンバウンドふらばーるバレーのように独自に競技会を開催してきた経過はあるが、今後もユニークな活動内容についても模索していく必要があると考えている。部活動地域移行に代わるワーキンググループの研究コンテンツの一つとして、そういった内容を検討するセッションも設けていく。

○ワーキンググループについて

【委員A】

そもそもワーキンググループを設けようと考えたきっかけとして、昨年の研究協議会の準備において、部会ごとの協議が活発であったことに起因している。全体会議であるの中々意見が出しにくくても、少人数の部会であれば多種多様な意見が出るため、今後のスポーツ推進委員の活動を検討していくうえでも有用であると考えている。

【委員D】

スポーツ推進委員全体の活動内容について今後の方針を定めるにあたっては、ワーキンググループごとに協議するよりは、全体にヒアリングをして、活動内容の精査・研究をしていく手法でも十分であるとする。先日行われた新任研修では、スポーツ推進委員の成り立ちを振り返ってみて、今スポーツ推進委員に求められている役割が何なのか改めて考えてみる契機となった。今一度スポーツ推進委員の存在意義について考えてみるのも重要だと考える。

【委員C】

スポーツ推進委員として様々な活動を行ってはいるものの、果たしてスポーツ推進委員としての本義を果たしているか日々疑問を抱いている。各地域で活発に活動している既存団体の運営補助などは行っているが、スポーツ推進委員としては今までスポーツをしていない層を取り込んでいくような取り組みも重要だと思うため、今一度スポーツ推進委員としての活動内容について研究・検討するべきではないか。

【委員E】

女性委員としての活動の中で、他市町村での活動内容に触れる機会が多いが、市町村ごとに活動の内容に差があると感じている。盛んに活動している地域ではスポーツ推進委員独自で様々な活動をしている。堀金地域のスポーツ推進委員の活動内容では、既存の団体の活動を手伝う機会が多いが、スポーツ推進委員という立場でこそできることを模索し、独自に活動する余地があるのではないかと感じている。

【委員D】

スポーツ推進委員として、様々な研修等にも参加しているがそのノウハウが市民に敷衍できていないのが勿体ないと感じている。折角なのでそういったノウハウを市民にも広めていけるような活動があると、有意義であるとする。

【委員C】

スポーツに限らず、文化芸術的なものであっても、手軽に始められるような機会が少ない実情がある（簡単に借りられる場所が無いなど）。スポーツ推進委員という立場でサポートできるような、スポーツに携わる機会創出の取り組みが必要と感じる。

【委員A】

三郷地域では、対象者を限定せずに誰でも参加できるようなニュースポーツ教室を開催するなどしている。スポーツ推進委員としての活動であれば、公民館・体育館は優先的に借用できるため、そのような催しを各地域でも積極的に開催してほしいと考えている。スポーツ推進委員の役割を改めて考えるのも大事であるが、具体的な催しやイベントを実際に企画してみない限りは、スポーツに携わる機会創出ができないため、具体的な施策を検討するためにワーキンググループを提案した次第である。

【委員F】

具体的な催しや企画の検討も重要であると認識している。ただし、それらを決めるうえでも、スポーツ推進委員としての本義に立ち返るべきだと考える。

【委員A】

スポーツ推進委員の存在意義を改めて協議するとして、次回の全体会議で推進委員全員にそのテーマを投げかけて、意見集約をどのように行うのが良いか。

【市職員】

全体会議で投げかけても中々意見は出ないため、ワーキンググループの形態を踏襲したうえで、推進委員全体をいくつかのグループに分けて一つのテーマ（スポーツ推進委員の役割・意義）についてそれぞれ協議してもらおうと、意見を出しやすく生の声が聴けるかもしれない。全体会議でディスカッションしてもらった内容について、事務局ないしは代表者会議でさらに協議して実際の活動内容に紐づけていくような取り組みをしていくべきではないか。ワーキンググループごとに複数のテーマを並行して協議するよりも、一つのテーマについて複数グループで協議し、数回に分けて精査していくほうが効果的かもしれない。その場合、集約された意見内容を、次回以降の会議ないしは活動にどのように昇華していくかが重要である。

【委員C】

グループディスカッションのテーマについて、「スポーツ推進委員の役割」といったものよりは、スポーツを促進するにあたってのスポーツ推進委員の関わり方を検討するというような内容の方が良いのではないか。

【委員G】

スポーツ推進委員として自分たちが出来ること、というような題目が良いのではないか。

【他委員】

異議なし

【市職員】

グループ人数としては5～6人が望ましい。各グループには議長として地域代表が入り、別途議事役や発表役を決めるようなやり方で良いか。テーマと、そのテーマを協議する理由や経過については、事前の開催通知等であらかじめ謳うこととしたい。

【他委員】

異議なし

(2) 安曇野市スポーツ推進委員研修会（担当：豊科）

・上記のグループディスカッションを行うため、研修会についての協議については一旦保留として、別の機会に再協議することとしたい。

(3) その他

・次回の第2回全体会議は7月31日（水）開催としたい。

5. 閉会

特記事項等

・